

「青森県外国人相談窓口」がオープン!!

～ 困っている外国人の方がいましたら、窓口をご紹介ください～

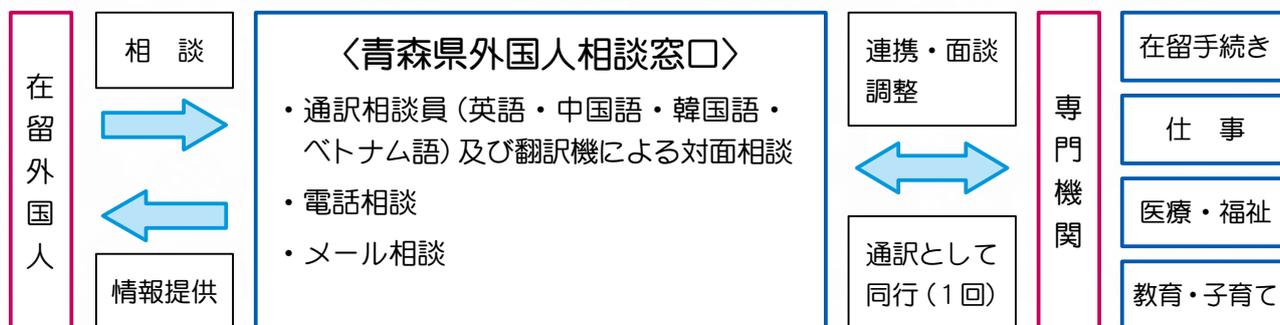
令和元年11月1日から、在留外国人からの相談や情報提供を行う「青森県外国人相談窓口」がオープンしました。「ベトナム語」にも対応できる相談員を配置し、拡充を図りました。

「青森県外国人相談窓口」では、さまざまな手続き、仕事、子供の教育など、青森県で暮らすうえで起こりうることについて、電話や面談などで相談に応じ、適切な情報を提供します。また、他の専門相談機関と連携を図って問題解決につながるようサポートします。必要がある場合は、他の相談窓口との面談調整や通訳同行（初回のみ）も行います。

相談窓口では、英語・中国語・韓国語・ベトナム語の通訳相談員を配置し、さらに翻訳機も活用して多言語での相談にも対応しますので、安心してご相談いただけます。

*相談に係る費用は、**無料**です。

*お車でお越しの際は、アスパム駐車場をご利用ください。最大2時間まで駐車券をお出しします。



<各言語の曜日・時間>

対応言語	曜日	時間
日本語	火曜日～土曜日	10:00～17:00
ベトナム語	火曜日	10:00～14:00
中国語	水曜日・金曜日	10:00～14:00
英語	水曜日・土曜日	10:00～14:00
韓国語	木曜日	10:00～14:00

*定休日：毎週月曜日、年末・年始休日：12/30～1/3、アスパム休館日：2/24～25

<窓口所在地/電話・FAX・メールでのお問合せ先>

住所	〒030-0803 青森市安方1丁目1-40 青森県観光物産館アスパム2階 グローバルラウンジ内 国際交流ラウンジカウンター
電話	017-718-5147
FAX	017-718-5148
メール	lounge_supporter@kokusai-koryu.jp

多文化共生社会への道

第1回

(公財) 青森県国際交流協会 常務理事 角 俊行

1 はじめに

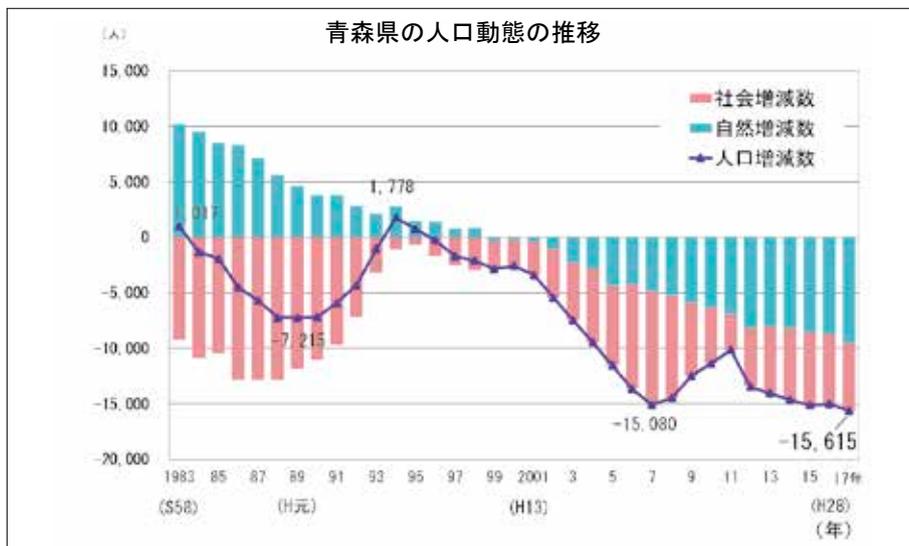
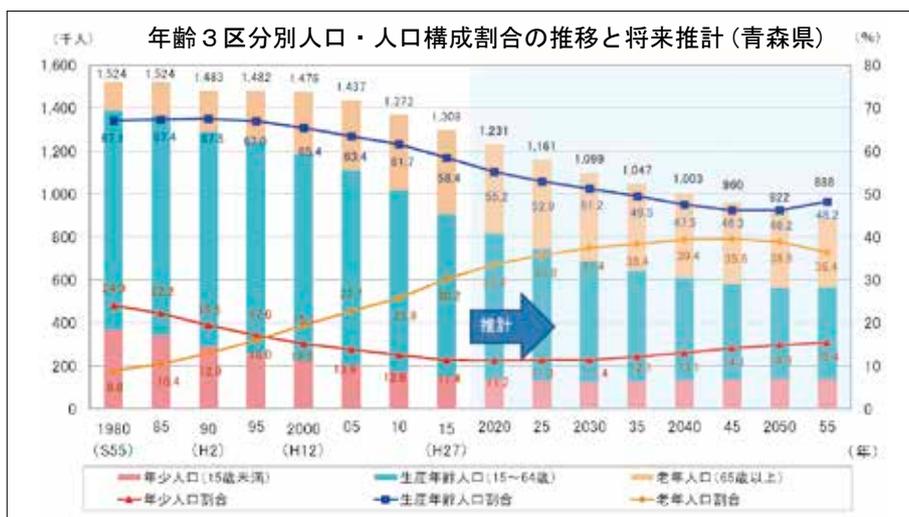
日本の在住外国人が増加しています。平成30年末の法務省統計をもとに、前号 (No.134) で概要を紹介しましたが、令和元年6月末現在の法務省統計の速報値では、青森県の在住外国人数は、6カ月前より約3百人増加し、6千人を超えました。この5年間では在住外国人は約2千人増加しています。

これは、本県産業界における絶対的な労働力不足が大きな要因ですが、今後の人口の推移を見ながら、産業界の動きを分析しつつ、このような中で青森県での多文化共生社会づくりをどのように進めればよいか、4回のシリーズでお伝えしたいと思います。

2 青森県の人口と産業界の動向

(1) 青森県の人口動態

日本の人口は、2008年をピークに減少に転じ、いわゆる人口減少社会に突入しました。日本の人口の年代構成は、65歳以上のいわゆる「団塊の世代」と言われる巨大な高齢層があり、出生率の低下に相まって、高齢化率を押し上げています。これに伴って労働力人口も減少中。この傾向は、青森県ではさらに厳しい状況となっています。また、中央と地方の様々な格差が拡大し、地方から中央への人口流出が止まりません。



資料：まち・ひと・しごと創生青森県長期人口ビジョン (平成27年8月)

知的産業の蓄積が少ない青森県では、一旦、中央に出て大学等で学んでも、戻ってきても働く場がないと言われてから久しく、大卒世代の回帰時期での数値 (社会移動率) が低い状況が続いています。

この5年間で在住外国人の急激な増加は、以上の人口動態にどのような変化をもたらすでしょうか。2020年の国勢調査の結果で、社会増減の減少幅が目に見えた形で生ずるならば、人口の将来推計などにかかりの影響を与えることとなります。

また、今後とも増加が継続することになれば、青森県の在住外国人の割合は約0.5%ですが、東京の約5%に至らないまでも、1%に近づいて行くことが想定されます。その時の青森県の姿はどうなっているか。それまでに多文化共生社会づくりをどのように進めていくのかですが、まずは、産業界の状況を見て、外国人労働者への需要を展望してみましょう。

(2) 在住外国人の増加をもたらした産業界の動向

日本の産業界は、この20年、長い経済の低迷の間、正社員採用を抑制しつつ職員の非正規化を進めてきました。しかし、極限的な金融緩和のもと、経済が動き始めると、今度は労働力人口減少の歪みが顕在化し、雇用を確保できない事態が多く発生するようになりました。将来を見据えた計画的な従業員確保（企業継続）の努力を怠ってきたツケとも言われます。

このため、有効求人倍率（有効求人数/有効求職者数）は、全国が1.6、青森県でも1.2程度、東京では2.1の水準となっています。しかし、職種別としては、建設業や製造業、介護の分野で人手不足なのに、事務職は東京でも1.0を超えませんが、青森県では0.5に満たない状況が続き、いわゆるミスマッチが生じています。

上記の職種の企業では、目下の生産やサービス提供の維持のために緊急対処しようと求人を出すものの、これを満たせず、近年、技能実習制度や経済連携協定を活用して、生産ラインや介護施設、コンビニ等の現場に外国人労働者を入れるようになりました。

青森県は製造業でも労働力に依存する食品部門の比率が高いため、この数年、全国をかなり上回って技能実習生が増加しています。県内企業等へのヒアリング結果も合わせて考えれば、当面、現在の傾向が続くこと、即ち外国人は増加し続けるものと予測されますが、実は、そこに条件があります。

(3) 外国人労働者を大切に育てる意識への転換

一時、日本では労働力依存型の製造業は、海外に出ていかないと存続できないと言われました。その後、いわゆるカントリーリスクが認識されるに至り、このようなリスクを冒すよりも、安価な外国人労働者を確保して国内生産に切り替える流れが強くなったように見えます。

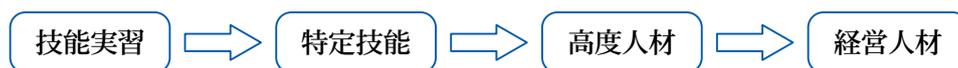
しかし、安価な外国人労働力に頼ることで企業の存続を図る策は長続きするでしょうか。

今後、生き残る企業とは、ニーズを開拓しつづける企業か、世界と渡り合える価値を創造しつづける企業であり、このような企業は、安価な労働力よりも、人材の質に着目します。IT企業や研究開発型の企業で多くの外国人が働き始めていますが、この方々の在留資格は「高度専門職」や「国際業務」などの在留資格の方で、「技能実習」ではありません。

経営者は外国人労働者を「使ってやる」意識から脱却することはもちろんですが、日本人と同じレベルの待遇（賃金その他）でないと外国人労働者も確保できない時代になっていることを認識する必要があります。

今後、現在の「技能実習生」人材の供給元の枯渇が予想される中、企業が人材を確保し続けるためには、「技能実習生」は、今年4月から新たな在留資格として認められた「特定技能」にとどまらず、高度人材にまで大切に育てることが必要と思われる。

また、わが青森県を見渡すと、本県の基幹産業である農業、水産業等の後継者不足は実に深刻です。りんご園や耕作地が目に見えて消えて行っている中、農業や水産業の技術を習得した外国人に農業や水産業に経営者として参入してもらおうとも考えなくてはならない時代になっているように思います。



今回は、多文化共生社会づくりを進めるための基礎となるお話をいたしました。

次回以降は、以下のとおりシリーズが続きます。

1 はじめに / 2 青森県の人口の産業界の動向（今号第1回）

3 多文化共生社会づくりとは（第2回）

「在住外国人のニーズの典型的理解」「多文化共生社会づくりに取り組まなければどうなるか」など

4 青森県での多文化共生社会づくりの方向（第3回）

5 多文化共生社会づくりの各分野での処方箋（第4回）

青森県日本語指導サポーター養成講座

8月に始まった青森県日本語指導サポーター養成講座は、いよいよ大詰め。来月からは日本語指導実習です。受講生のおひとり、ネパール出身のゴビンダさんにお話を伺いました。

ネパールの明日を創るために学びたい

Namaste (ナマステ)。こんにちは。

私の名前はワイバ ゴビンダ (GOBINDA WAIBA) です。ワイバが名字で、ゴビンダは名前です。私の名前はネパールの偉人にちなんで名づけられました。

ネパールという国はカトマンズ (山脈地方)、ミッドヒル、そしてタライ (平野地) の3つの地域に分かれます。私はカトマンズの隣のカブレ県から来ました。ネパールは山が多くて寒いところ、というイメージはありませんか?カブレ県はミッドヒルにあり気候は暖かです。ネパールといえば、なんととってもエヴェレスト。そして、仏教の始祖ブッダが誕生したところです。

日本に来たのは経営や経済を勉強したかったからです。安全で安心なことも魅力でした。青森に留学することについては、日本語学校の先生に勧められました。自然が豊かで環境も穏やかだという話でした。青森に来て驚いたのは雪!雪でイグルーという家を作ったことがありましたが、雪って、もともとは水でしょう?それが白くなって固まるなんて、とてもビックリです。

私は日本語をもっと勉強したくて、そしてそれを多くの人に教えたくて「青森県日本語指導サポーター養成講座」に参加しました。日本語で難しいと思うのは漢字です。あいまいな表現も難しいですね。コンビニでアルバイトをしていますが、お客様に商品を「袋にお入れしましょうか」と尋ねると、よく返ってくる答えが「大丈夫です」。いるのか、いないのか、どっちなんだろうと悩みます。

日本語の勉強はこの講座が終わっても続けます。日本語能力試験のN1合格が今の目標です。将来の目標はネパールで社長になること、できることなら政治の世界にも挑戦したいです。現実的じゃないって言われることもありますけどね。



ネパールは多民族国家です。写真は私の民族である“タマン族”の帽子と衣装です。最近、お祭りや大きな行事のときしか着ません。

ゴビンダさん、ありがとうございました。Dhannyabad (ダンネバダ)。これからもよろしくお願いします。

国際交流サポーターを募集しています

当協会では、国際交流サポーターを随時募集しています。登録を希望される方は、ホームページより登録用紙をダウンロードしていただき、ご記入の上、メール・郵送・持参のいずれかにより当協会へご提出ください。なお、国際交流サポーターへの連絡方法は、基本的にメールとなるため、メールアドレスのご記入が必須となります。



* 語学サポーター

通訳や翻訳をはじめ、多文化共生に伴う、外国人への対応 (法律相談・災害時多言語支援・医療通訳等) にご協力いただける方

* ホストファミリーサポーター

外国の方々をご家庭で受入れ、お互いの文化や習慣を理解し合う気持ちをお持ちの方

* イベント等ボランティア

国際交流イベントへご協力いただける方や当協会ラウンジ業務等をサポートいただける方

◆国際交流サポーターをご活用ください

通訳や翻訳を希望する方、また、ホームステイをご希望の方へ、登録している国際交流サポーターをご紹介します。活用を希望する場合は、ホームページより活動依頼書をダウンロードいただき、ご記入の上、当協会へご提出ください。

詳細は、協会ホームページをご覧ください。電話・メール等でお問い合わせください。

* 協会ホームページトップ → 協会のご案内 → 国際交流サポーター

URL : <http://www.kokusai-koryu.jp/about/volunteer/recruitment.html>



JICA topic

トピック

国際理解講座

「世界をのぞいてみよう!～青森からできる国際協力」を開催しました

9月28日、青森県観光物産館アスパム2Fで国際理解講座「世界をのぞいてみよう!～青森からできる国際協力」を開催しました。今回は、JICA青森デスクの遠藤久美子さんにお話をいただきました。



遠藤さんは、2014年から2年間、青年海外協力隊としてウガンダに赴任しました。ウガンダでは女生徒たちのセカンダリースクール（中学2年生から高校3年生までの中高一貫校）で理科の教師を務め、実験を中心とした授業を始め多彩な活動に励みました。

ウガンダは東アフリカに位置し、首都はカンパラです。東にケニア、南にタンザニア、南西にルワンダ、西にコンゴ民主共和国、北に南スーダンとの国境に囲まれています。アフリカの一般的なイメージ

は砂漠が多い乾いた土地といったものですが、山も多く大きな森が広がっています。もっともよく知られた観光地は南部のビクトリア湖です。大変美しい大きな湖で海外から多くの観光客が訪れます。ほぼ赤道直下にあたることから暑い国と思われそうですが、雨季もあり上着が必要なほど寒くなります。雨が降り続けると多くの道はぬかるみになり、約40kmの距離を車で進むのに3時間以上かかったこともあったそうです。

さて、遠藤さんが赴任した学校ですが、校則の一つとして女子生徒たちは頭を丸坊主にしなくてはならないそうです。おしゃれをしたい年頃だけに抵抗感はないのかと、尋ねてみました。意外にも、おしゃれは様々に考えているようで、そんな思いはどこどの国も似ているかもしれません。

また、授業で使用していた現地の子どもの英語のレベル、どうしてウガンダが「アフリカの真珠」と呼ばれているのかなど、たくさんの質問が会場のみなさんからありました。

国際協力写真展2019－繋がっている、世界と私たち－

9月27日から29日まで、「国際協力写真展2019－繋がっている、世界と私たち－」が国際理解講座と同時開催されました。

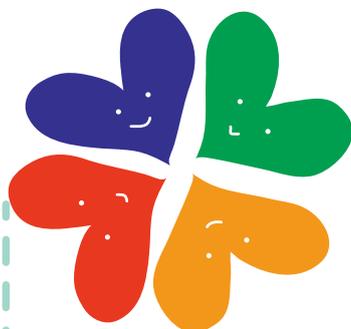
会場には、青森県にゆかりあるJICA海外協力隊が撮影した開発途上国の写真約60点と、プロカメラマンによるJICA事業の写真約30点の他、同協力隊が現地での様子をおさめた約50本の動画の上映を中心に展示しました。多くの方にじっくりと時間をかけてご覧いただき、3日間の来場者約250名の方に対して、世界に暮らす人々の様子や現状、課題などをお届けできたのではないかと思います。



週末には、「JICA海外協力隊応募相談コーナー」を設置し、青森県青年海外協力協会（AOCA）の皆さんを中心に常駐してくださり、仕事を希望されている方、青森で海外にかかわる活動がしたい方にお越しいただきました。ざっくばらんなお話で盛り上がり、青森の国際交流・国際協力について新たな交流の場になりました。

JICA青森デスク

JICAの事業についてご質問などございましたら、JICA青森デスクまでご連絡ください。
TEL:080-3140-2129 E-mail:jicadpd-desk-aomoriken@jica.go.jp



青森から世界へ ～JICA海外協力隊活動報告～

青年海外協力隊 2018年度1次隊 ヨルダン・ハシミテ王国

藤田 彩加 (つがる市出身：障害児・者支援)

私はヨルダンで、障害児・者支援の活動を行っています。

ヨルダンはイスラム圏で、女性は外出時や家族以外の男性に会う時は、ヒジャブという布を被り、髪の毛を隠します。さらに鼻・口も隠して目だけ出している人や、顔全体も布で覆っている人もいます。女性で、特に障害を持った人は地域社会の中で生きづらさを感じているように見えました。

また、村落地域の家庭での宿泊・扉の無いトイレなど様々なことを経験し、イスラム教やヨルダンの文化を日々実感しています。特に好きなヨルダン料理は『マクルーベ』です。『マクルーベ』はご飯と鶏肉、素揚げしたカリフラワー、ナス、じゃがいもなどの野菜を一緒に炊いたものです。オリーブの実もおいしく、ほぼ毎日食べています。

活動は、市街地から離れた村落地域にある障害児・者施設で、知的障害や自閉症を持つ人の支援を行っています。文字・数字の学習、余暇活動、食事・排泄・手洗い・ごみをゴミ箱に捨てるなどの、日常生活動作の習慣化への支援と同僚への提案をしています。

余暇活動では、ペットボトルのけん玉や折り紙でこまなどを、利用者さんたちと作っています。頑張って学ぶ時、笑顔で楽しい時、のんびりする時間を共有しながら、利用者のより良い生活のために、自分ができていることを考え取り組んでいます。

また、青森のこぎん刺しを、ヨルダン在住の日本人に伝え、3月に行われた日本文化交流会でこぎん刺しのコースター販売ができ、私はパフォーマンス書道を行いました。

私は常にこぎん刺しの名刺入れを持ち歩き、地元のキャラクターの『つがるちゃん』のポロシャツを着て活動を行い、自宅では、津軽塗の箸でごはんを食べ、日々青森を感じ、活力にしています。



夏のヨルダンの風景



活動先の施設長が作ったマクルーベ



同僚と作成した文字表（アラビア語）



ペットボトルと新聞紙で作ったけん玉

最後に、私を受け入れてくれた・受け入れようとしてくれている現地の人と、このような機会を与えてくださったJICA関係者の方、家族はじめ私を応援してくれている人全員に感謝の気持ちを持ち、これからも活動に取り組んでいきます。

弘前市で「イベント時の外国人を想定した避難誘導訓練」が実施されました

2019年9月27日（金）、令和元年度弘前市総合防災訓練が実施され、弘前大学社会言語学研究室の協力のもと、「イベント時の外国人を想定した避難誘導訓練」が弘前はるか夢球場で行われました。

この訓練では、イベント中に震度6強の地震が発生したという想定のもと、外国人に対して地震が発生したことを「やさしい日本語」を使って伝達・避難誘導することを目的に実施されました。

外国人役として日本人材協同組合のベトナム人技能実習生44名が参加



放送と電光掲示板により、スタンドからグラウンドへ避難誘導

し、「やさしい日本語」による避難誘導に従い、低い姿勢を取る等の安全確保、そして速やかなグラウンドへの移動を行っていました。

日本語のレベルにより避難誘導の理解に差はあるものの、来日間もない実習生にとっても「やさしい日本語」による避難誘導のかなりの有効性が示されたものとなりました。



(上) 安全確保：頭を守り低い姿勢を取る
(下) 避難誘導に使用したボード

* 一般財団法人自治体国際化協会（クレア）ホームページ

・青森県弘前市における「イベント時の外国人を想定した避難誘導訓練（概要）」

URL : <http://www.clair.or.jp/j/multiculture/shiryou/shinsai.html>

「やさしい日本語」にするための12の規則

弘前大学社会言語学研修室のホームページで、「やさしい日本語」を作る時の注意点として、『「やさしい日本語」にするための12の規則』が紹介されています。各項目の詳細はホームページでご確認ください。

- (1) 難しいことばを避け、簡単な語を使ってください
- (2) 1文を短くして文の構造を簡単にします
文は分かち書きにしてことばのまとまりを認識しやすくしてください
- (3) 災害時によく使われることば、知っておいた方がよいと思われることばはそのまま使ってください
- (4) カタカナ・外来語はなるべく使わないでください
- (5) ローマ字は使わないでください
- (6) 擬態語や擬音語は使わないでください

- (7) 使用する漢字や、漢字の使用量に注意してください
すべての漢字にルビ（ふりがな）を振ってください
- (8) 時間や年月日を外国人にも伝わる表記にしてください
- (9) 動詞を名詞化したものはわかりにくいので、できるだけ動詞文にしてください
- (10) あいまいな表現は避けてください
- (11) 二重否定の表現は避けてください
- (12) 文末表現はなるべく統一するようにしてください



* 弘前大学人文社会科学部社会言語学研究室ホームページ（2020年1月17日閉鎖）

URL : <http://human.cc.hirosaki-u.ac.jp/kokugo/index.html>

三沢基地内大学県民就学推進事業／2020年春期就学者募集説明会開催

2019年11月16日（土）、三沢市国際交流教育センターにおいて、2020年春期就学者募集説明会を開催しました。

今回の説明会は、青森県におけるグローバル化へ向けた活動の一つとして、グローバル人材養成セミナー実行委員会・青森県・三沢市の主催による「あおもりグローバルアカデミー」のセミナーと同日開催とし、高校生から50代の方まで幅広く27名の方にご参加いただきました。

今回の説明会ではメリーランド大学ブリッジプログラムの体験として、メリーランド大学の教授に「Getting Started Using English」という模擬授業をしていただき、参加者同士ペアになり様々な課題に取り組んでいました。また、現役就学生や卒業生から、授業の様子や基地内で学ぶ魅力等について体験談をお話いただきました。基地内大学への就学を機にベース内での就職を考える方も多く、求人について積極的に質問する方が多くいました。

基地内大学についてご興味のある方は、いつでもお気軽に当協会までご連絡ください。



模擬授業の様子

青森県内の国際交流事業・イベント紹介

● NPO法人みちのく国際日本語教育センター

* 公開研修会「外国人に教える日本語講座」

- 日 時：入門コース／3月24日（火）・26日（木）
実践コース／3月31日（火）・4月2日（木）
18：30～20：30
- 場 所：八戸市福祉公民館（八戸市類家）
- 対 象：外国人に日本語を教えてみたい方
- 受講料：各コース2,000円
- お申込み・お問合せ先：
馬場さん／TEL：080-6051-3109
明日山（あけびやま）さん／TEL：080-6026-3109
E-mail：michinokunihongo@gmail.com

● あおもり地球市民ネット

* あおもり地球市民講座

- 青森市へ国際交流員として来ている方が、お国の女性事情、青森へ来てから見て・出会った青森の女性たちについて語ってください。参加ご希望の方は、事前に連絡してください。
- 日 時：2020年1月25日（土）午後1時～3時半頃
- 場 所：アピオあおもり小研修室3（青森市中央3-17-1）
- 定 員：20名
- 参加料：無料
- お申込み・お問合せ先：千葉さん
TEL/FAX：017-736-3235
E-mail：cttmidp@mbj.ocn.ne.jp



*この講座は、あおもり県民力レジの単位として認められます

協会からのお知らせ

● 協会ホームページをご活用ください

* 民間国際活動団体さんの活動状況をお知らせください

「国際活動団体一覧／青森県内の国際活動団体」に掲載しております青森県内の民間国際活動団体さんの情報は、当協会へご提供いただいた時点での情報を掲載しておりますので、変更等が必要な場合は、「国際活動団体一覧／活動調査票フォーム」より必要事項を入力し、内容をご確認の上送信してください。

活動調査票フォームURL：<http://www.kokusai-koryu.jp/activity/form.php>

* イベント案内、お知らせ案内、語学講座案内をご活用ください

国際交流や国際協力に関するイベント案内やお知らせの告知、語学講座開講案内などにご活用ください。

「お知らせ／イベント・お知らせの掲載依頼フォーム」より必要事項を入力し、内容をご確認の上送信してください。

イベント・お知らせの掲載依頼フォームURL：http://www.kokusai-koryu.jp/news_event/event_form.php

※ご注意ください

- ・ご依頼いただいた情報を確認の上、ホームページ更新作業を行いますので、変更までに数日要することをご了承ください。
- ・パソコンをご利用されない方は、お電話・FAX等でお知らせください。
- ・ホームページ閲覧者よりお問合せがありますので、掲載内容に変更がある場合は必ずお知らせください。

公益財団法人青森県国際交流協会 Aomori International Association

国際交流ラウンジ／International Lounge

〒030-0803 青森市安方1丁目1-40
青森県観光物産館アスパム2F
ASPAM BLDG. 2F, 1-1-40, Yasukata, Aomori-shi.
Post-Code: 030-0803
TEL: 017-718-5147 FAX: 017-718-5148
E-mail: lounge_supporter@kokusai-koryu.jp

事務局／Office

〒030-0803 青森市安方1丁目1-40
青森県観光物産館アスパム7F
ASPAM BLDG. 7F, 1-1-40, Yasukata, Aomori-shi.
Post-Code: 030-0803
TEL: 017-735-2221 FAX: 017-735-2252
E-mail: info@kokusai-koryu.jp



* 国際交流ラウンジカウンター／外国人からの問合せ窓口

受付時間／10：00～18：00
休日／毎週月曜日 年末・年始休日／12月30日～1月3日
アスパム休館日／2月24日～25日

Website：<http://www.kokusai-koryu.jp>
Facebook：<https://www.facebook.com/aomori.kokusai.koryu>
Twitter：<https://twitter.com/aomorikokusai>